

# 平成29年度 叡明高等学校 学校自己評価シート

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 目 標	建学の精神である「みんなから愛され、信頼される人」「社会に役立つ人」「勤労を尊び前進する人」を育てることを目標とする。「叡智・高志・協調」を教育の理念とし、①自主自立の精神を養い、自ら学び自ら考える力を育む。②確かな学力と規範意識に基づく豊かな社会性を養い、たくましく生き抜く力を育む。③思いやりの心や個性を伸ばし、一人ひとりの夢や希望を育む。以上の3点を具体的な教育方針とし教育活動を行う。
本年度の目標	全学年共学化となる本校の基礎が完成する年度であることを念頭に置き、学習活動の指導をはじめ、規範意識や道徳心を培い、基本的生活習慣を身につけさせる。

	評価項目	現 状	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策	学校関係者評価	
								実施日 平成30年5月29日	
								学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	教 務 教員授業力強化の取組 教育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>コース間における学力差はもとより、コース内における学力差も見受けられる。</li> <li>科目により（特に数学）得意、不得意の差が見られる。</li> <li>学習に対する意欲を持つ生徒が増えており、予習や復習および授業中の学習態度の徹底が不十分な生徒も見受けられる。</li> <li>高大接続入試改革に向けたカリキュラムの再編成が迫られている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒全体の基礎学力の底上げを図る。放課後補習などを導入し、生徒が抱えている「中学時代の積み残し感」等の苦手意識をできるかぎり払拭する。</li> <li>教科指導部との連携のもと研究授業を実施し、生徒の学習意欲をさらに喚起させる授業力の向上を目指す。</li> <li>教員同士の研修・遠慮のない進言ができる環境を作り、学習指導方法の工夫・改善を積極的に行い、わかりやすい授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力および学習習慣の定着。</li> <li>授業力の向上。</li> <li>学習意欲の向上。</li> <li>定期試験前の学習習慣の定着。</li> <li>学習に集中できる環境の確立。</li> <li>授業中の巡回指導等による指導体制の確立。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講習への参加率も年々増加しており、学習意欲の高い生徒たちが増えている。</li> <li>定期試験前の放課後だけではなく、日頃から放課後残って、学習する生徒が増えている。</li> <li>積極的に質問をして、苦手な分野を克服していこうとする生徒の姿が多くみられる。</li> <li>学習への意識付けを更に推進したい。</li> <li>全教員が共通認識を持ち、自習授業を減らすなど組織的な教科指導を通しての生徒指導にも繋げていきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業力向上のためにさらに方策を講じる必要がある。</li> <li>学習効果をより高める指導のために教員の自己研鑽の場を増やしていく必要がある。</li> <li>研究授業の拡大、授業アンケートの内容やあり方を精査していく必要がある。</li> <li>成績不振者の解消に向けて、補習等の恒常化を検討する必要がある。</li> <li>4技能の英語だけではなく、基礎学力の確立の上に入試改革があることを意識していく。</li> </ul>	項目ごとではなく、全体としての意見等を集約しました。	
2	教科指導 教科指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学進学希望者が着実に増えている。</li> <li>一般入試の受験者数が少ない。</li> <li>医療系看護系への進学希望者が年々増えている。</li> <li>難関大学合格者がまだ少ない。</li> <li>土曜講習・長期休暇講習の中身（生徒の要望と授業の質との乖離）</li> <li>各種検定試験への取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導部との連携による大学を意識した進路ガイダンスの開催</li> <li>公開授業週間や教科担当同士の研修や連携を推進して、教科指導方法を常に検証し、わかりやすい授業を通して生徒たちに学ぶことの大切さや喜びを体感させるべく、授業力を向上する。（教員相互の授業見学）</li> <li>授業と大学進学対策講座講習の体系化を図り、難関大学への合格者の増加を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>模試の途中経過と最終的な合格実績</li> <li>講習への参加率上昇と模試などの結果向上への相関。</li> <li>難関大学の入試に対応した授業や講習の実施。</li> <li>検定合格者数の増加と合格実績。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学定員の厳格化という厳しい状況はあるが、一般入試での合格者数をより伸ばしていきたい。</li> <li>難関大学の入試に対応できる態勢をより整えるべく、土曜講習や長期休暇中の講習に加え、放課後講習や映像配信授業の効能をさらに検討して、改善を図りたい。</li> <li>教科横断的な情報共有の場をさらに増やしていきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>安易に推薦入試に流れるのではなく、目的意識を持たせたい。入試方法の選択をさせる必要がある。</li> <li>一般入試に挑戦する生徒の増加を目標とする。</li> <li>難関大学に挑戦する生徒たちへの学習指導の在り方、講習の在り方をさらに検討を加え、より充実したものにしていきたい。</li> <li>英検だけではなく、他の検定試験への受験を積極的に推進していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コース・類型によって、土曜講習・長期休業中の講習が必修と選択必修（任意参加）に分かれているが、生徒自身が参加しなくても良いと解釈している部分がある。特進Ⅱ類までは必修にしても良いのではないかと。</li> <li>プリント学習が中心の講習もあると聞いている。生徒が講習を受ける意義を自覚できるように指導してほしい。</li> <li>土曜講習に参加することによって達成感が感じられるように工夫してほしい。</li> <li>通常授業の内容をそのまま講習で扱うわけではないので難しいが、授業の復習的な要素も取り入れ、「できるようになった」と実感できれば、モチベーションも高まり、参加率の上昇や充実した講習が受けられる学校との口コミも広がっていくのではないかと。</li> <li>講習へ出席率がコース・類型によっては低いと聞いているが、現状はどうか。部活動を中心に考えている生徒の出席率は低いといえるが、午前中講習、午後部活動という形で基本的には両立ができるので、今後意識を高めたい。</li> <li>自ら進んで進路相談ができない生徒への個別対応を取っていただきたい。</li> <li>英検は、全学年で一斉に受験させているため、2級以上の合格者が28年度25名から55名と倍増しているため今後も合格者を増やしてもらいたい。</li> <li>今後の大学受験に関しては英語検定だけではなくTOEIC等の受験も考慮していく必要があると。生徒各自が「自分にとっての難関大」を目指すよう指導することが肝要である。</li> </ul>	
3	進路指導 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導室の活用不全。</li> <li>進路の手引類の未発行。</li> <li>進路行事の体系的構築の必要性。</li> <li>進路委員会の活動不活性。</li> <li>現役大学進学5.2%（H28年度卒）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCの導入・書棚購入。</li> <li>進路の手引類の今年度中の完成。</li> <li>進路行事の精査。</li> <li>進路委員の多方面での活躍。</li> <li>きめ細かな進路指導の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導室の整備。</li> <li>進路の手引類の完成。</li> <li>進路行事の精査・構築。</li> <li>進路委員会の活性化。</li> <li>進学実績の数値目標の分析。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備努力はしたがまだ不十分。PC導入も書棚購入もできていない。</li> <li>進路の手引類の制作は手つかずの状態。</li> <li>精査は進んでいる。毎年の進路希望変化に対応しながらより良くしている。</li> <li>昼休み当番を展開できたことは一歩前進。</li> <li>目標は80%であったが68.4%となった。浪人が8.7%であったことを考えるとほぼ達成した。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>PC導入と書棚購入を急ぎたい。また、教員が詰められる環境（机・椅子）を整えたい。その後は昼休み・放課後の開放に近づけたい。</li> <li>進路の手引類の完成を目指す。</li> <li>より大学進学指導の色を強くする。対象者を絞ったよりきめ細かな指導が求められる。</li> <li>行事等でのスタッフとしての参加などが、主体性育成の観点からも必要である。</li> <li>大学希望者は80～90%の推移が予想される。生徒各自が「自分にとっての難関大」を目指すよう指導することが肝要である。</li> </ul>		
4	生活指導 生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校における一般的なマナーの向上が求められる。</li> <li>交通安全に対する意識が希薄で事故に巻き込まれる生徒もいる。</li> <li>挨拶の声が小さい。</li> <li>同じ生徒が遅刻を繰り返す。また遅刻寸前に登校する生徒が少なくない。</li> <li>頭髪・服装が乱れる生徒がいる。特に頭髪の色染め、スカート丈を短くする、ハイソックスを下げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校集会や学年集会でマナーについて生徒に理解させる。</li> <li>登下校の時間帯での通学路指導を徹底する。また、教員から挨拶の率先垂範。</li> <li>指導効果の期待できる交通安全指導を実施する。</li> <li>校門での整容指導を充実させる。教員数を増やし、毎日登校時に、生徒の頭髪や服装を確認し、必要に応じ即時指導する。</li> <li>定時に校門を開け、早めの登校促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校のマナーにかかわる苦情の減少。</li> <li>交通事故件数の減少。</li> <li>生徒、教員間の元気で明るい挨拶の実践。</li> <li>制服の正しい着用。</li> <li>校則にそった頭髪。</li> <li>遅刻者の減少。</li> <li>問題行動の指導件数の減少。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的にマナーアップがなされた感はあるが、時折意識が薄れる場面もある。マナーについての指導を継続した。</li> <li>自転車での交通事故は減少したが、事故後の対応が適切ではないケースがあった。</li> <li>文化祭後、一時的に整容面に乱れが生じたが、指導強化を図り、改善した。</li> <li>遅刻者は徐々にではあるが確実に減少している。</li> <li>問題行動が減少した。（前年度比 46%）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>マナーやモラルに対する意識をさらに高めるべく、通学路指導を強化し、元気な挨拶の実践を継続させる。</li> <li>自転車通学者指導を徹底し、特に事故後の適切な対処について理解させる。</li> <li>制服の正しい着用の指導にかかわる、教員側の準備を整え、実践する。</li> <li>カラースケールの導入を含め、きめ細かい頭髪指導を実践する。</li> <li>さまざまな啓発活動を実施し、生徒の豊かな心の育成を目指す。</li> </ul>		
5	広 報 広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>定員520名を超える生徒の入学。</li> <li>男女比55：45。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的広報活動の展開。上級学校訪問やPTA高校見学の受け入れや進路講演会などへの参加。（上級学校訪問の受け入れ、PTA見学会の受け入れ、進路講演会への参加、出前授業の実施）。</li> <li>中学校訪問や塾訪問の実施。（中学校訪問、塾訪問）。</li> <li>学習塾主催相談会への参加。</li> <li>ホームページによる生徒活動状況や学習への取り組み状況の発信。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学則定員の確保。</li> <li>学校説明会、個別相談会、オープンスクール等の参加者の増加。</li> <li>志願者数の増加。</li> <li>単願希望者の増加</li> <li>ホームページの迅速な更新。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定員充足率114.0%となった。</li> <li>オープンスクール参加者（前年度比119%）</li> <li>学校説明会参加者（前年度年比69% 平均参加率102.9%）</li> <li>個別相談会参加者（前年度比103.9%）</li> <li>ホームページ更新状況はやや改善した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的広報活動の展開。上級学校訪問やPTA高校見学の受け入れや進路講演会などへの参加。</li> <li>中学校訪問や塾訪問の実施。（中学校354校の絞り込み及び塾訪問延べ1,300塾訪問）</li> <li>学習塾主催相談会への参加である。</li> <li>ホームページによる生徒活動状況や学習への取り組み状況の迅速な情報発信を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報科への入学者が減少している。情報科のネーミングの変更、例えばIT科とすればとの意見もあったが、名称の変更だけでは、ミスマッチ等の問題解消にはならないことをお伝えした。</li> <li>全体としては生徒のことをよく見てくれていると感じている。また生徒自身も学校生活が楽しいと言っている、との意見を聞くことができた。</li> </ul>	